

噴火の概要

発生日時 1888年7月15日

噴火位置 山頂

被害状況 1888年7月15日朝、鳴動と地震につづいて、7時45分頃から約1分の間に15～20回の爆発を起こし、その後、爆発は北に抜け、大磐梯山頂部のすぐ北側の小磐梯が崩れて岩屑なだれを発生させた。岩屑なだれにより磐梯山の北側には多くの池沼や桧原湖などが生じた。死者477人、被害家屋463戸の被害

被害状況は火山土地条件図「磐梯山」による。

1888年の噴火では磐梯山の北側斜面が大きく崩れて岩屑なだれが発生し、北麓の村々を埋めてしまったんだ。

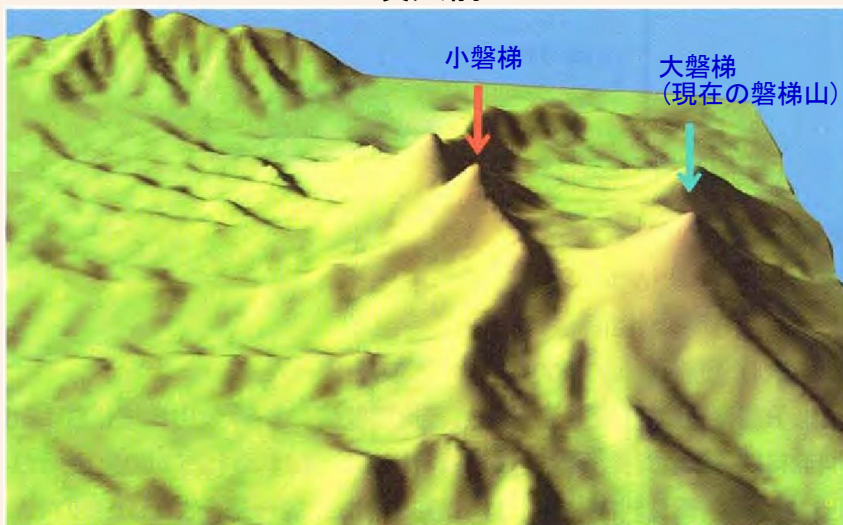
これほどの大きな出来事がわずか3時間ほどの間に起きたんだよ。

岩屑なだれが堆積した場所には小丘（流れ山）やくぼ地が多くできて、くぼ地に水が溜まって五色沼のような小さな池や、桧原湖のような大きな湖ができあがったんだよ。

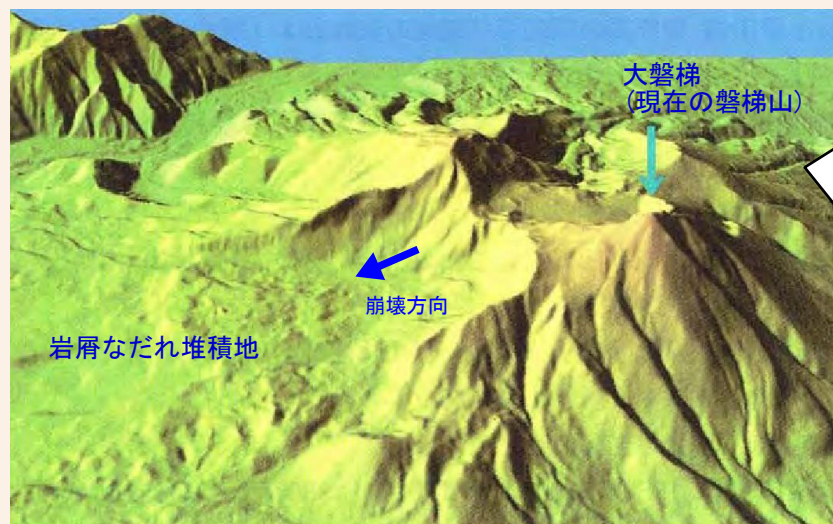


噴火前後の山体比較

噴火前



噴火後

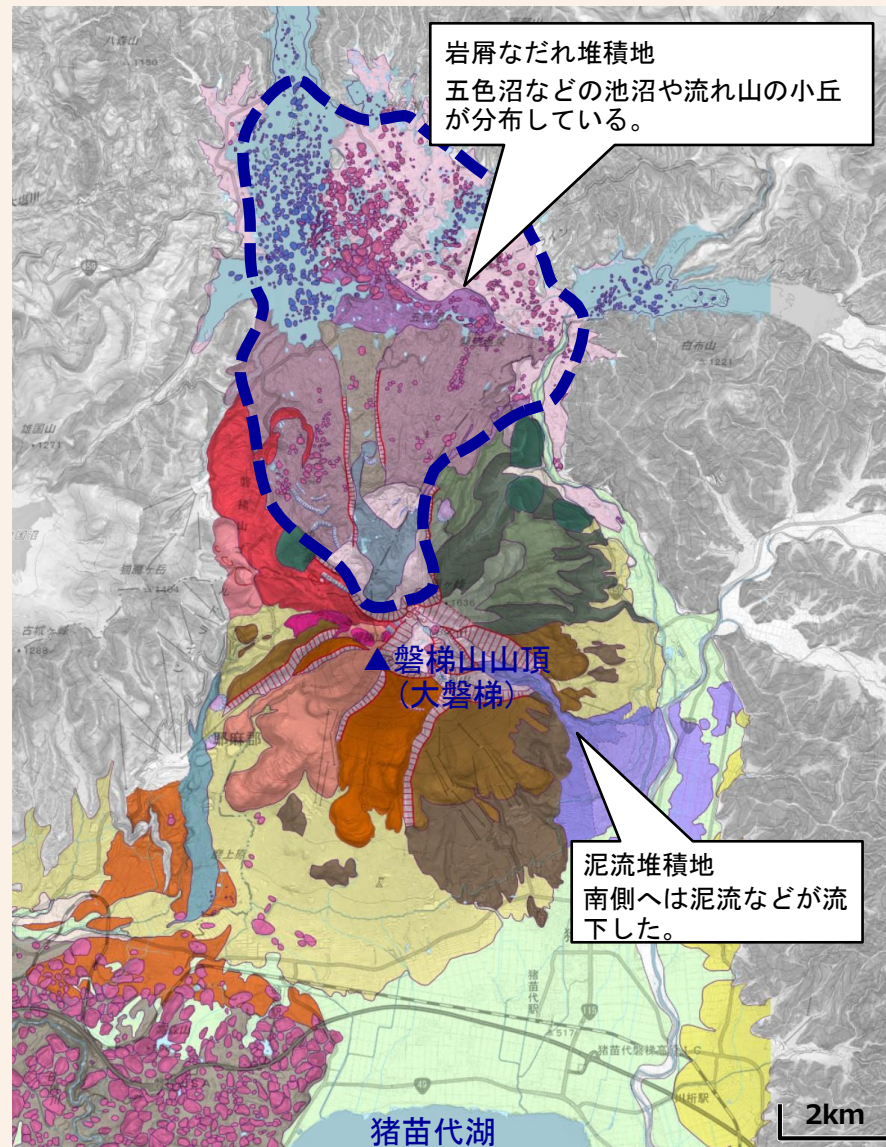


1888年の噴火以前に大磐梯（現在の磐梯山山頂）の北側に存在した小磐梯の山体が崩壊し、岩屑なだれとなって北側へ流れ下った。

地形図と傾斜量図の重ね合わせ図



火山地形分類データ (2000・2001年調査)



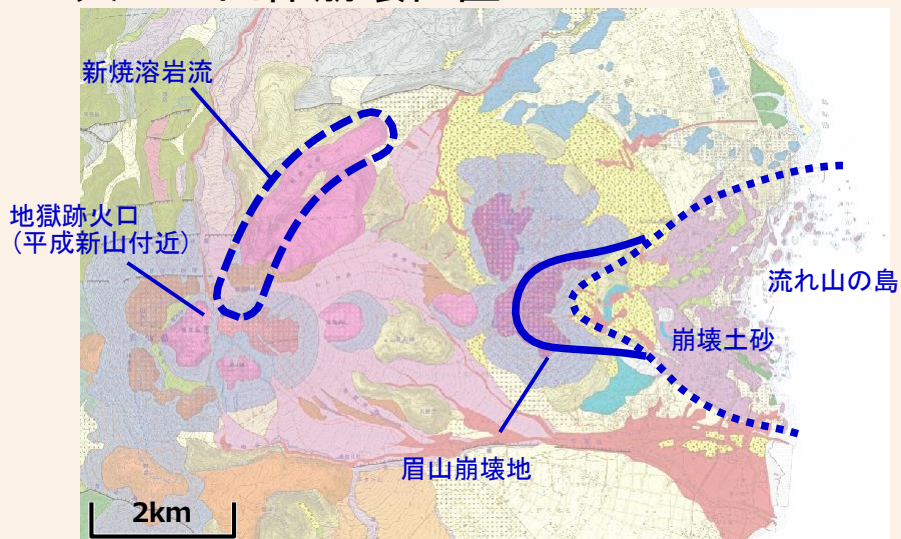


噴火の概要

発生日時 1792年2月10日～(山体崩壊は5月21日)
噴火位置 地獄跡火口など(山体崩壊は眉山東側)
被害状況 前年11月から地震。2月10日普賢岳で鳴動。
山頂付近の地獄跡火口から噴気、土砂を噴出。3月1日に新焼溶岩流出開始(約2ヶ月続く)。22日には峰の窪からも噴煙、溶岩も流出し、新焼溶岩と合流。5月21日強い地震と同時に眉山(当時前山)が大崩壊を起し、有明海に流れ込み津波発生。島原及び対岸の肥後・天草に被害。死者約15,000名。

被害状況は気象庁ホームページによる。

火口・山体崩壊位置



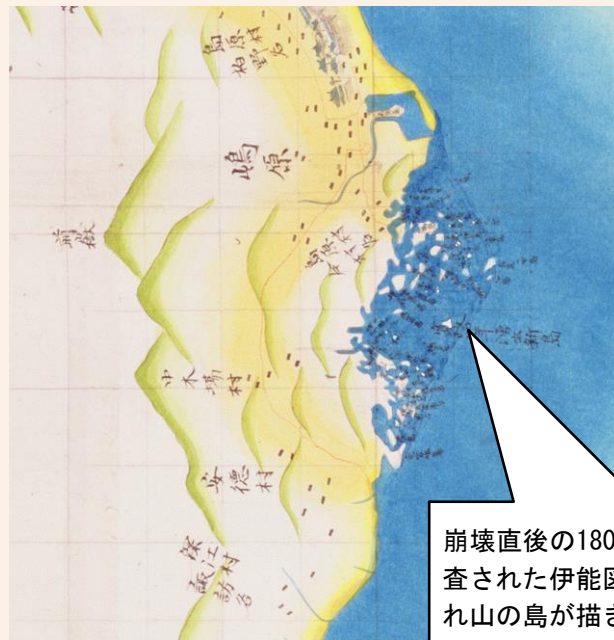
火山土地条件図「雲仙岳」(1996年調査)に追記

島原大変肥後迷惑と呼ばれる山体崩壊による津波災害として有名だけど、山体崩壊は雲仙岳の噴火活動中に起きた地震と同時に発生しているよ。

眉山はほぼ全体が溶岩円頂丘で、その大きさは雲仙火山群の中で最大であり、雲仙火山群の中でも比較的新しい火山だよ。

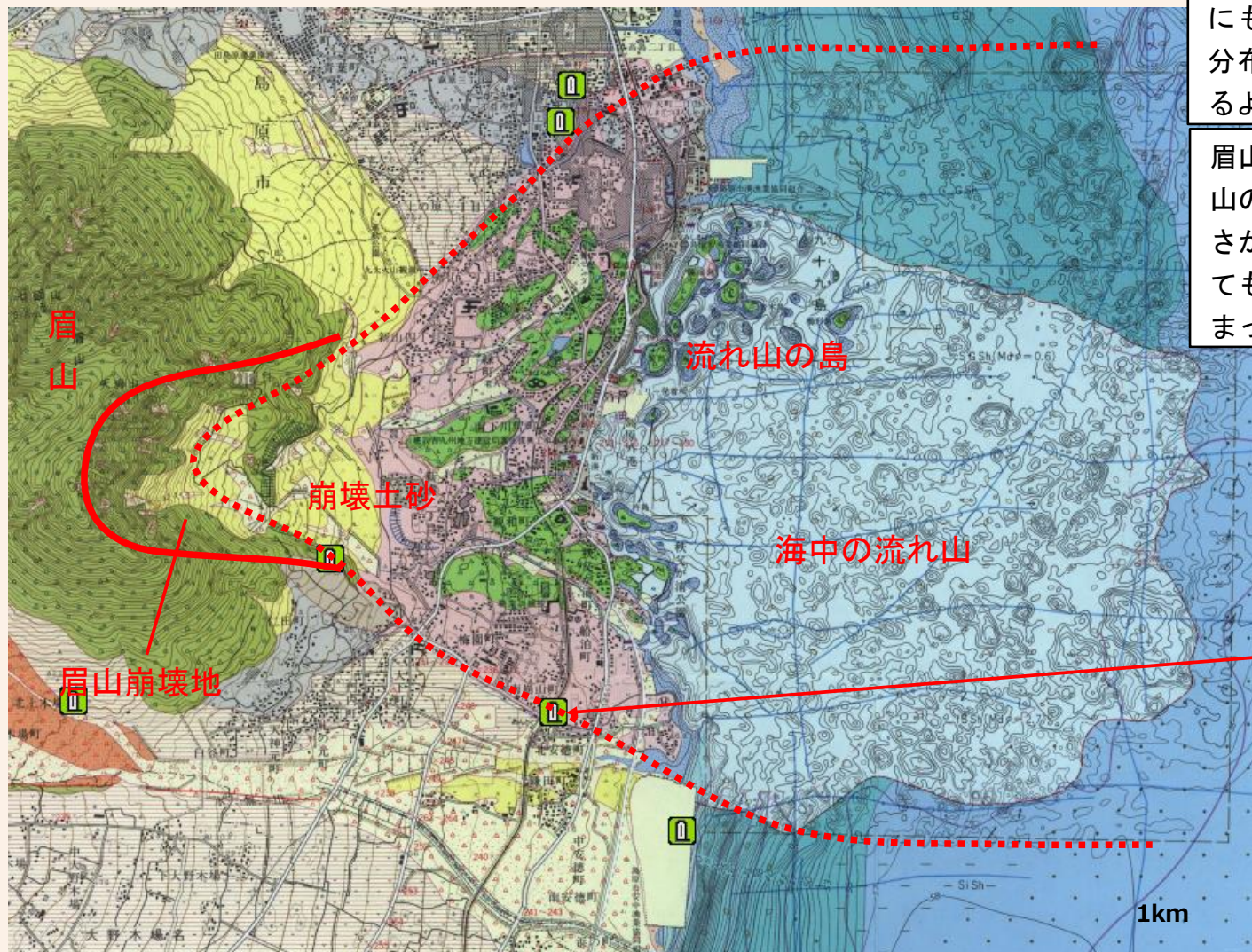


伊能大図「肥後天草 肥前島原」



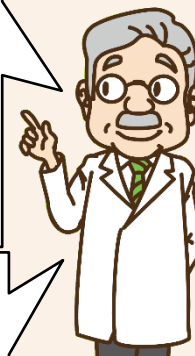
崩壊直後の1800年から1816年にかけて調査された伊能図では、現在より多くの流れ山の島が描き込まれている。

沿岸海域土地条件図「島原」(1996年調査)と自然災害伝承碑



沿岸部の陸部及び海部の詳細な地形調査を行った沿岸海域土地条件図には、海中にも流れ山の高まりが広く分布することが示されているよ。

眉山の崩壊土砂量は、磐梯山の山体崩壊より規模は小さかったが、津波によりとても大きな被害となってしまったんだ。



自然災害伝承碑

流死菩提養塔

寛政4年(1792)、地震により眉山(まゆやま)が大崩壊して有明海に崩れ落ち大津波が発生した。島原での死者は1万人ともいわれ、津波による溺死体が多く打ち上げられた(島原大変)。津波は対岸の肥後天草も襲った(肥後迷惑)。

